

小林 初期の皮疹およびその組織像と一過性系統的侵襲像と後の環状紅斑様変化ならびにリウマチ様関節炎症状とをあわせ考えると, もしその系統侵襲徴候が self perpetuate に現われることがあれば“リウマチ様関節炎の SLE への移行”を示す症例とみることもできよう。

9. *Kelion celsi* 二例

宮治 誠 (千大)

症例 1, 21 才, 男子。農業。主訴: 頭部の膿瘍ならびに脱毛。現病歴は昭和 43 年 9 月末より前頭部に癢痒を伴う小豆大の丘疹が散在性に出現。同年 10 月 10 日頃より丘疹は増加, 腫大し, 親指大, 半球状に隆起してきた。圧を加えるとプツプツカシ, 膿がでる。激しい頭痛が 10 月 10 日より 8 日間続き, 眠ることができぬ位であった。また右耳後部に小豆大のリンパ節 1 ケ触れ得た。培養により *Tr. rubrum* を分離した。検査成績は白血球数 10150, 電気泳動で α_2 11.5 以外は正常。

症例 2, 2 才, 女児。本年 1 月頃より頭部に落屑が激しくなり, 続いて Pustel, Abscess, Krustenbildung が著明となって来た。また患部に一致して脱毛も起こって来た。培養により *Tr. rubrum* が分離された。

〔討論〕

竹内教授 昔は多かったが, 今は少なくなった。

宮治 *T. rubrum* による *Celsi* は少ない。菌糸形がすぐ孢子形になるような株があるのではないだろうか。

石井 第 2 例には他の *Dermatosen* の合併はなかったか。

番場 なかった。

宮治 Eiter の直接検鏡にては Pilz はみえなかった。

10. Rice-oil Dermatitis

田辺 義次 (千大)

北九州地方に多発したカネミオイルによる中毒症につき, 長崎大, 久留米大皮膚科より提供されたスライドを供覧。

〔追加〕

今井 私の入局時 Paraffinom の症例を経験した。

田辺 Chloracne は従来は外因性のものといわれていた。外国での報告はすべて外因性である。

11. Toxic Epidermal Necrolysis (Lyell) の剖見例

川瀬 健二 (千大)

67 才, ♀。生来著患を知らなかったが, 3 カ月前から下肢の神経痛にてサリチゾン C (アスピリン 250mg + V. C 25 mg) 6 Tab および高血圧の治療としてエガリン, ルミナルを服用していた。背部, 臀部の痒感と共に発症し, 翌日にはほぼ全身に小指頭大までの出血斑を混ざる紅斑が出現した。更に 1 日後には, 紅斑上に水泡形成を認め, ニコルスキー現象は強陽性で, 一見二度の熱傷を思わせる形で当科を受診した。疼痛と 39.5°C の発熱を伴い全身状態ははなはだしく犯されていたが, 副腎皮質ホルモンおよび熱傷に準じた補液の主体治療を行ない, 4 日間は血圧も 110 mmHg 前後を維持するも 5 日目早朝より血圧は低下し意識も混濁し肺炎様症状を合併して死亡した。入院時の皮膚組織は典型像を示し, 検査成績には白血球減少, 血清蛋白値の低下, 尿糖, 尿蛋白陽性の他, 尿中スルファミン定性で陽性の結果を得た。剖検所見は, 肝・腎に中毒性変化を示す像を認めた。

12. 特異な経過をとった熱傷の一例

奈良林 定 (深谷日赤)

癲癇があり, かつ知能低下・言語障害のある身体障害で, 父親が子供の将来を考える余り, 治療の時期が遅れて特異な経過をとった熱傷の 1 例を, スライドを主体に報告した。

13. 熱傷の Scarlet Red Ointment 治療に対する 2, 3 の治験

齊藤 総明 (君津中央)

近藤 省三 (千葉労災)

抄録未提出